

ラウンド テーブル ROUNDTABLE

2015.03.19(木)
18:00-21:00 (open 17:30)

大阪府立江之子島文化芸術創造センター
[enoco]1F

参加費 500円 / 定員 50名 (要申込)

共催 大阪府立江之子島文化芸術創造センター [enoco]

ゲスト

熊倉純子

(東京藝術大学音楽環境創造科教授 / 取手アートプロジェクト実施本部長)

齋藤啓

(NPO法人鳥の劇場 制作担当)

山出淳也

(NPO法人 BEPPU PROJECT 代表理事 / アーティスト)

進行

吉澤弥生

(共立女子大学文芸学部専任講師 / recip (NPO法人 地域文化に関する情報とプロジェクト) 代表理事)

主催：「ヒーロー」プロジェクト実行委員会
助成：財団法人地域創造 / 公益財団法人福武財団 / 一般財団法人おさか創造千島財団
協力：山王連合振興町会 / 社会福祉法人山王みどり会 / 山王女性会 / 飛田地区商店街連合 /
元鈴木タナシ匠 / 大阪市立大学 都市研究プラザ (ほか作品制作に協力いただいた皆様 (順不同))
テレビカメラ：雨森 信 / プログラムディレクター：内山幸子 / 事務局：松尾真由子・高岩みどり

公益財団法人福武財団

おおさか創造千島財団

地域資源を活用した 創造活動拠点 Breaker Project



オープン スタジオ OPEN STUDIO

2015.03.25(水)-29(日)
13:00-19:00

「新・福寿荘」 →

パラモデル

kioku 手芸館「たんす」 →

藪内美佐子

入場料 無料

地域資源を活用した創造活動拠点 Breaker Project

お申し込み・お問い合わせ

ブレイカープロジェクト事務局
TEL : 070-5046-8667
E-mail : info@breakerproject.net
URL : http://breakerproject.net/

Breaker Projectとは

大阪市が推進する文化事業として、2003年より浪速区・新世界からスタートし、西成区へもエリアを拡げながら継続して活動する地域密着型のアートプロジェクト。既存の枠組みにとらわれず、独自の表現手段を開拓するアーティストとともに、まちの中に創造の現場を生み出し、地域の人々と様々な関わりをつくりながら、「芸術と社会の有効な関係」を再構築していく取り組みです。地域に根ざした創造活動の実践を通して、芸術文化の振興を図ると同時に、地域に潜在する価値を掘り起こし、創造的で多様な個が共存する地域社会の創出を目的としています。2011年からは、地域に根ざした創造活動拠点として地域資源を活用した「創造の場」の実験のほか、住民による地域コーディネーターとの連携・協働にも積極的に取り組んでいます。

ラウンドテーブル

西成区山王を拠点に地域密着型のアートプロジェクトとして継続して活動するブレイカープロジェクトは、築60年の木造アパートを活用した「新・福寿荘」、元タンス店を改装した「kioku手芸館「たんす」」など、2011年より地域資源を活用した創造の場づくりの実験に取り組んでいます。

1990年以降、全国的に広がる各地のアートプロジェクトにおいても、活動を通して出会うさまざまな場、商店街の空店舗や、空家、空地、廃校などを活用した取り組みが多くみられるようになってきました。こういった実践は、期間限定の展覧会やフェスティバルの会場となるだけでなく、日常的な活動として地域とのつながりを生みだしつつ、持続可能な運営の実現に向けた実験の場でもありと捉えています。

今回のラウンドテーブルでは、取手アートプロジェクト(茨城県)、鳥の劇場(鳥取県)、BEPPU PROJECT(大分県)よりゲストをお招きし、日常的に開かれた創造空間の場づくりについて、事例を紹介いただきます。また後半は、それぞれの実践より方法論や課題を抽出し、ゲストのみなさんとディスカッションを行う予定です。

アートプロジェクトは近年さらに増殖する傾向にありますが、その活動を継続するための経済的基盤については、まだまだ不安定な状態にあります。本ラウンドテーブルは、実践から得られた知見や課題を共有し対話を重ねていくことで、地域の特性に合った活動基盤が各地で整備されていくことを期待して実施いたします。

日時 2015年3月19日(木) 18:00~21:00 (開場 17:30)

会場 大阪府立江之子島文化芸術創造センター [enoco] 1F

参加費 500円

定員 50名(要申込)

プログラム

- 1部 18:00-18:40 基調講演
「取手アートプロジェクト -フェスティバル型からプロジェクト型へ-」熊倉純子
- 2部 18:45-19:25 事例紹介 I 「鳥の劇場」齋藤 啓
事例紹介 II 「BEPPU PROJECT」山出淳也
- 3部 19:30-20:30 ディスカッション「地域の固有性に根ざした創造活動拠点のあり方」
パネラー：熊倉純子/齋藤 啓/山出淳也/雨森 信(Breaker Projectディレクター)
進行：吉澤弥生

プロフィール

熊倉純子
(東京藝術大学音楽環境創造科教授/取手アートプロジェクト実施本部長)

パリ第十六大学卒、慶應義塾大学大学院修了(美学・美術史)。(社)企業メセナ協議会を経て、2002年より現職。アートマネジメントの専門人材を育成し、取手アートプロジェクト(茨城県)、アートアクセスあだちー音まち千住の縁(東京都)など、地域型アートプロジェクトに学生たちと携わりながら、アートと市民社会の関係を模索し、文化政策を提案する。東京都芸術文化評議会文化都市政策部会委員、文化庁文化審議会文化政策部会委員などを歴任。著書に「アートプロジェクト—芸術と共創する社会」(監修。水曜社、2014)「社会とアートのえんむすび1996-2000—つなぎ手たちの実践」(共編。ドキュメント2000プロジェクト実行委員会発行、トランスアート、2001)、「<地元>文化—地域圏の未来のつくりかた」(共著。羽谷剛彦編著。河出書房新社、2014)など。

齋藤 啓

(NPO法人鳥の劇場 制作担当)

1974年東京生まれ。東京で舞台照明会社に5年間勤務し、演劇からダンス、コンサートまで、様々な舞台作りの現場を経験する。同時期に鳥の劇場の前身となる劇団の活動にも参加。2006年鳥取県に移り、鳥の劇場の立ち上げに関わる。現在は制作専任で、鳥の劇場の劇場運営から公演・演劇祭の制作、海外とのプロジェクトまで幅広い業務を担当している。舞台芸術制作者オープンネットワーク(O-N-PAM)理事。鳥取県警頭町在住。

山出淳也

(NPO法人BEPPU PROJECT 代表理事/アーティスト)

1970年大分生まれ。PS1 インターナショナルスタジオプログラム参加(2000~01)。文化庁在外研修員としてパリに滞在(2002~04)。アーティストとして参加した主な展覧会として『台北ビエンナーレ』台北国立美術館(2000~01)、『GIFT OF HOPE』東京都現代美術館(2000~01)、『Exposition collective』Palais de Tokyo、パリ(2002)など多数。帰国後、地域や多様な団体との連携による国際展開を目指して、2005年にBEPPU PROJECTを立ち上げ現在にいたる。『別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」』総合プロデューサー(2009、2012、2015)、『国東半島芸術祭』総合ディレクター(2014)、『おいたのトレンナーレ』総合ディレクター(2014)、平成20年度「芸術選奨文部科学大臣新人賞」受賞(芸術振興部門)。

吉澤弥生

(共立女子大学文芸学部専任講師/ recip [NPO法人 地域文化に関する情報とプロジェクト] 代表理事)

1972年生まれ。大阪大学大学院修了、博士(人間科学)。専門は芸術社会学。労働、政策、運動、地域の視座から現代芸術を研究。近著に論文「大阪の現代芸術事業の周辺に起きたこと」(『上方芸』191号、2014)、単著『芸術は社会を変えるか?—文化生産の社会学からの接近』(青弓社、2011)、調査報告書『続々・若い芸術家たちの労働』(2014)など。また recip では東京文化発信プロジェクト室との協働で「『船は種』に関する活動記録と検証報告」(2013)、「『筋平の事例研究』活動記録と検証報告」(2014)を制作。



江之子島文化芸術創造センター [enoco] 大阪市西区江之子島2-1-34
地下鉄千日前線/中央線「阿波座駅」⑧番出口より西へ約150m

プロジェクト紹介

取手アートプロジェクト
(TAP=Toride Art Project)



撮影：伊藤友二

鳥の劇場



BEPPU PROJECT



1999年より市民と取手市、東京芸術大学の三者が共同でおこなっているアートプロジェクト。若いアーティストたちの創作発表活動を支援し、市民に広く芸術とふれあう機会を提供することで、取手が文化都市として発展していくことをめざしている。2010年度より、会期を設定しておくようなフェスティバル型からプロジェクト型へとシフトし、長期的視野にたった取り組みを年間を通じておこなっている。郊外都市の特性を活かして展開するコアプログラムの一つ(アートのある団地)では、日本全国290戸を数える団地、また郊外に向けた社会提案として、北澤潤発案の「SUN SELF HOTEL」など、団地の空間や空き部屋を活用したさまざまなプロジェクトを展開する。
http://www.toride-ap.gr.jp

鳥取県鳥取市鹿野町の廃校になった小学校の体育館と幼稚園を劇場に変えて、2006年から活動を開始。我が国では数少ない劇場を持つ劇団として、地域社会における演劇や劇場の新しいあり方を模索している。主に、現代演劇の作品を創る劇団としての活動と、公演やアウトリーチなど幅広いプログラムを行う劇場としての活動がその両輪となっている。毎年9月には国内外の舞台作品を招へいる「鳥の演劇祭」を開催しているほか、鳥取県全域で実施されている「暮らしとアートとコノサキ計画」/「鳥取藝文祭」にも深く関わる。俳優、演出家、音楽家、技術スタッフ、制作(運営)スタッフなど、14名がフルタイムで活動に従事している。
http://www.birdtheatre.org/

世界有数の温泉地として知られる大分県別府市を拠点に活動。この町で、国際芸術フェスティバルを開催することをマニフェストに掲げ、2005年に発足して以来、現代芸術の紹介や教育普及活動、人材育成講座や出版事業など様々な事業を実施。2009年より3年に1回開催される国際芸術祭「別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」」を開催している。スペース運営としては、中心市街地の空き店舗や長屋をリノベーションして活用する「platform」事業、アーティストの居住・制作の場「清島アパート」、元ストリップ劇場を再生した「永久別府劇場」、築100年以上経つ長屋をアーティストとともに改装した宿泊施設「浜脇の長屋」などがある。
http://www.beppuproject.com

お申し込み方法

3月18日(水)までに電話またはメールにて「お名前」「参加人数」「ご所属(ご職業)」「ご連絡先」をお伝えください。

なお、定員に達しなかった場合は、当日の受付も行います。

TEL : 070-5046-8667

E-mail : info@breakerproject.net

オープンスタジオ

2011年より地域資源を活用してオープンした創造活動拠点「新・福寿荘」と「kioku手芸館「たんす」」における現在進行中のプロジェクトを公開します。

この2つのスペースがある西成区山王は、昔ながらの木造長屋や路地など、趣のある風景やコミュニティが残る一方、建物の老朽化や住民の高齢化に伴い、まちの様相が急速に変化しつつあるエリアです。そういった状況のなかで、使われなくなった建物にアーティストが入り、創造活動の場として再生させていくことは、場所に織り込まれた地域の記憶を呼び覚ましていく作業でもあります。

<新・福寿荘>では、アパートという特性を活かし滞在制作の場として、<kioku手芸館「たんす」>では、アーティストと地域の人々が出会い共創する場として、それぞれの場の特性に合わせた活動を展開しています。

日時 2015年3月25日(水)~3月29日(日) 13:00~19:00

会場 創造活動拠点「新・福寿荘」、kioku手芸館「たんす」

参加アーティスト パラモデル、藪内美佐子

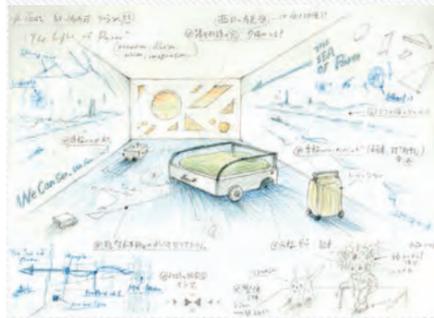
入場料 無料

オープンスタジオ I

「新・福寿荘」

築60年の木造アパートを活用した実験の場。元・居住空間という特性を活かしたレジデンス事業を、今年度より新たにスタートしました。その第一弾として、アーティストユニット・パラモデルが、新・福寿荘の一室を滞在型作品へと転換させます。今回は、メンバーの中野裕介が飽くなき関心を抱きつづける、四天王寺を舞台とする能楽・謡曲『弱法師』とその主人公・俊徳丸少年へのリサーチをもとにしたプロジェクト『レジデンス・バラ陽ヶ丘(仮)』が進行中です。

[制作協力] (株) POS 建築観察設計研究所



「レジデンス・バラ陽ヶ丘(仮)」のためのプランニング。パラモデル Courtesy of MOBI YU GALLERY

パラモデル

林泰彦(2001年 京都市立芸術大学構想設計専攻卒業)と中野裕介(2002年 同大学院院院院院専攻日本画修了)からなるアートユニット。2001年より活動開始、2003年にユニット名を「パラモデル」に。共に東大阪出身。得意領域や趣向の異なるパラレル [parallel] な2人が、『パラモデル [paramodel]:世界や心の様々な部品から組み立てる、詩的な模型/設計図』というコンセプトを核に共存、互いの視差 [parallax] と関係性を生かし、2人による「模型遊び」という要素をベースに、多様な形式で作品を制作。

【連携企画】

「新・福寿荘」では、2012年より若手アーティストやクリエイターの創造活動の場として入居者を募集しています。現在活動中の2つのスペースも同時にご覧いただけます。

■「アトスペースギャラリー / #13」(主宰:谷川恵子) http://www.artspace13.com

「Tsumaru-tokoro」the concluding exhibition of "tokoro" artist : mizutama
3月14日(土) - 4月20日(月) 会期中の土・日・月 14:00 - 21:00 / 入場料 200円

■中塚智・オープンアトリエ

オープンスタジオ 2

kioku手芸館「たんす」

美作家・藪内美佐子を迎え、今年度から2年継続のプロジェクトを始動。昨年6月より5つのワークショップを展開しながら、地域の人たちを中心とした参加者とともにプロジェクトの可能性を探っています。オープンスタジオでは、藪内のドローイング等とこれまでのワークショップで生まれた作品、そしてポートレート(撮影:草本利枝)を展示します。また、期間中は地域の女性たちによる「喫茶たんす」もオープンします。

【喫茶は毎日14:00 - 15:30 | 有料/なくなり次第終了】



撮影：仲川あい

藪内美佐子

1964年生まれ。京都市立芸術大学大学院美術科修了。絵画、アニメーション、編みぐるみ、詩などをゆるくしたベースで発表。1984年より dumb type に参加し 作品制作、パフォーマーとして舞台に関わる。近年の活動としては 高谷史郎ディレクションのパフォーマンス「明るい部屋」(La Chambre Claire)、「CHROMA」、2015年からの新作(タイトル未定)に参加。2013年より音楽ユニット 山/完全版を制作中。HAPPY SPOT NARA 2014 - 2015アートクル! ドキュメントに参加など。身の回りに起こる出来事新たな側面や組み合わせの妙に好奇心を持ち探求したいと思っている。



「新・福寿荘」 大阪市西成区山王1-5-31 / kioku手芸館「たんす」 大阪市西成区山王1-11-5
地下鉄御堂筋線/堺筋線「動物園前駅」②番出口より徒歩5~10分